鳴門教育大学附属幼稚園

学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

（令和７年度）

令和８年３月

学 校 関 係 者 評 価 委 員 会

目　次

学校関係者評価委員会が実施した学校評価について.....1

Ⅰ　学校関係者評価結果.....3

Ⅱ　評価項目ごとの評価.....5

評価項目１　教育課程・指導 5

評価項目２　保健安全管理 5

評価項目３　組織運営 6

評価項目４　研究と研修 6

評価項目５　教育環境整備 7

評価項目６　教育実習 7

参考：学校の現況及び目的.....9

学校関係者評価委員会が実施した学校評価について

はじめに

本報告書は学校評議員、大学教員、附属学校部会の組織体として連関する公立幼稚園園長、保護者等の学校関係者で構成された鳴門教育大学附属幼稚園学校関係者評価委員会が附属幼稚園の教育・研究活動の観察及び園長をはじめとする教職員との意見交換等を通じて同園の自己評価結果について概評することを基本に学校関係者評価を実施し、その結果を取りまとめたものである。

１　学校評価の目的

学校評価は、次の３つを目的として実施するものである。

① 学校が自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
② 学校が自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
③ 学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講ずることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

２　学校評価に係る実施スケジュール

令和７年８月　第１回学校関係者評価委員会(委員長の選出、令和７年度自己評価に係る目標及び評価項目について、学校評価に係る実施スケジュール等)。
令和７年８月～８年３月　学校関係者評価委員による施設見学、保育･園行事等の参観及び教職員との意見交換(幼児教育研究会等)。
令和８年２月　第２回学校関係者評価委員会(自己評価の結果及び改善方策等に関する説明を受けての学校関係者評価の実施と評価報告書の作成等)。

３　学校関係者評価委員会委員(令和８年３月現在)

木下　光二：鳴門教育大学大学院学校教育研究科高度学校教育実践専攻
教員養成特別コース　名誉教授（特命教授）
近久　博州：附属幼稚園みどり会前会長
湯地　宏樹：鳴門教育大学大学院学校教育研究科高度学校教育実践専攻
幼児教育コース　教授
○山越　　明：徳島文理大学短期大学部　保育科　准教授

(50 音順、○は委員長)

４　本評価報告書の内容

(1)「Ⅰ　学校関係者評価結果」

「Ⅰ　学校関係者評価結果」では、「Ⅱ　評価項目ごとの評価」において、評価項目１から６のすべての評価項目の内容を総合的に判断し、４段階評価で記述した。

【4段階評価の基準】
A 十分達成されている
B 達成されている
C 取り組まれているが、成果が十分でない
D 取組が不十分である

また、学校の目的に照らして、「主な優れた点」、「主な改善を要する点」を抽出し、上記結果と併記した。

(2)「Ⅱ　評価項目ごとの評価」

「Ⅱ　評価項目ごとの評価」では、評価項目１から６において、当該評価項目が達成されているかどうかの「評価結果」（4段階評価）及びその「評価結果の根拠・理由」を記述した。

(3)「参考」

「参考」では、自己評価書に掲載されている「Ⅰ　学校の現況及び目的」を転載した。

５　本評価報告書の公表

本報告書は、鳴門教育大学に提供するとともに、設置者に提出する。またウェブページ（http://www.naruto-u.ac.jp/schools/06/002.html）への掲載を通じて、広く社会に公表する。

Ⅰ　学校関係者評価結果

鳴門教育大学附属幼稚園の学校関係者評価は内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断した。

念願であった校舎改築が実施されることとなり、令和7年4月より旧校舎を解体し、解体した跡地に新校舎の建設が進められている。その間、仮園舎を隣接する附属小学校内に置き、校舎の一部を借用して教育実践を進めている。小学校多目的棟1･2階を園舎として、小学校校庭の一部と中庭を園庭としての教育実践は、今までと比べるとスペース的にも環境的にも限られた条件の中での活動を余儀なくされる面もあるが、教職員の工夫や園児の環境適応の柔軟性など、今までとは違う環境を活かした教育実践の場ともなった。

環境は大きく変わった中での令和7年度の教育実践であったが、教員養成大学の附属幼稚園としての使命である「研究幼稚園としての使命」「教育界の発展に寄与する使命」「教育実習等を行う使命」は十分に果たしたといえる。

主な優れた点について、以下に列挙する。

○　「1　教育課程・指導」においては、教育課程・指導計画である「生活プラン」に基づいたカリキュラム・マネジメントを実施している。「子どもと創る保育」の理念のもと、幼児の主体性・創造性を重視し、保育者の基本姿勢を大切にした教育を推進している。本年度は教育環境が大きく変わったが、幼児はその環境の中に溶け込み、主体的に遊びを創造し活動する経験に繋がった。「科学的思考力涵養プログラム」を導入し、STEAMIC 教育の視点を取り入れながら、幼児期から児童期の発達や学びの連続性を言語化・可視化し、小学校との連携・接続を図っている。

○　「2　保健安全管理」においては、保健計画に基づき全職員による保健指導体制での保健管理が適切に実施されており、保護者に対しては「ほけんだより」などで随時情報を提供するなど園と家庭の共通理解を図っている。心肺蘇生法に加えて食物アレルギーの講習会を実施したり、安全管理計画に基づき、定期的な安全点検や防災・避難訓練を実施したりするなど危機管理体制が十分に機能している。

○　「3　組織運営」においては、園長・部内教頭のリーダーシップのもと、研究部・教育実習部・教務部それぞれに主任を配置し、全教職員が明確化された園務分掌に従って協力しながら業務を進められるように工夫しており、体調を崩す教職員がでてきても補い合って園務を遂行できている。園務の効率化や省力化を図るため、業務の一部外注化やデジタルツールの活用を進めるとともに、責任体制を整備し、少人数でも効果的に運営できる体制を構築している。

○　「4　研究と研修」においては、園舎改築に伴い、研究保育の公開や幼児教育研究会は実施できなかったが、園内研究会・合同研究会はオンライン会議システムを併用して外部の方の参加も得て実施した。「遊誘財」に関する研究を継続的に進めるととも

に、「子どもと作る保育」を振り返り保育者の思考に視点をおいた研究を進め、多くの意見を得ることができた。また、徳島県教育委員会と連携した研修を実施するなど県内外の要請に応じながら、研究幼稚園・奉仕幼稚園としての役割を果たしている。

○ 「５　教育環境整備」においては、課題であった園舎の老朽化への予算措置がなされ新園舎建設が始まり将来的な教育環境の整備が具現化してきている。本年度は附属小学校内の仮校舎での教育実践となったが、限られた環境の中で学年ごとの教育活動を模索したりプランターでの栽培活動をしたりなど教職員は工夫をして、この環境でなければ経験できない教育効果をあげている。仮園舎での教育活動におけるみどり会（保護者会）との連携も大きく、朝の立哨やボランティアなどの協力は環境整備や教育活動の充実に寄与している。

○ 「６　教育実習」においては、ふれあい実習、附属学校園観察実習、附属学校園実習オリエンテーション、附属学校園実習、基礎インターンシップ、総合インターンシップⅠ・Ⅱ、幼児教育実践フィールド研究Ⅰ・Ⅱなど、年間を通して多数の実習生を受け入れている。基礎的な保育実践力や態度、カリキュラム・マネジメント力の育成を目的とし、綿密な実地教育計画に基づいて、ICT の活用を含めたきめ細やかな指導が行われている。

主な改善を要する点について、以下に列挙する。

○ 「３　組織運営」においては、園長・部内教頭のリーダーシップのもと、少数精鋭の体制で職員が協力しながら、園務の効率化・省力化に努めている。しかし、現行の体制のまま園教育の充実を図りつつ、県教育委員会や関係機関との連携による研究・実践、附属学校としての教育実習を継続するには、職員一人ひとりの負担が大きく、持続可能な運営の確保が課題となっている。今後、働き方改革の進展に伴い、業務負担の適正化と保育の質の向上を両立させるため、専任教頭制の導入を含めた教員定数の増員を設置者へ要請したい。

○ 「５　教育環境整備」において、現在令和８年 11 月の新園舎完成に向けて建設工事が進められており、その間、隣接する附属小学校の理解のもと校舎や校庭の一部を園舎として借りて教育活動が進められているが、昨年度までの教育環境と比べると後退していると感じることはゆがめない事実である。附属小学校との話し合いや連携・協力を進めて仮校舎での教育環境の向上を図るとともに、新園舎完成後の教育環境の充実に向けて取り組む必要がある。

Ⅱ　評価項目ごとの評価

評価項目１　教育課程・指導

【評価結果】　以下の内容を根拠として、4 段階評価中の「A 十分達成されている」と判断された。

（評価結果の根拠・理由）

観点１－１　幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況

「生活プラン」（別添資料 1-③）の月別指導計画シートを作成し、指導計画の具体化を図っている。仮園舎になったことを踏まえ、月別指導計画シートを持ち寄り、全体打ち合わせとその評価を実施して、仮園舎という環境変化を踏まえたカリキュラム・マネージメントを実施し、日々の保育の見直しを図っている。令和 7 年度附属幼稚園評価アンケート集計結果（別添資料 1-①）においても年長児保護者から一定の評価が得られていることから優れた取り組みであると判断される。

観点１－２　科学的思考を促す幼小接続の生活プラン（教育課程・指導計画）に関する取り組み状況

「生活プラン」に基づき、「子どもと創る保育」の理念のもと、STEAMIC 教育の視点を取り入れた保育を展開している点は高く評価できる。特に、幼小連携の「科学的思考力涵養プログラム」において、「発見と問題解決」「言葉への関心」「数量と図形」「協同的感性」のカテゴリーを設定し、遊びを通した学びを可視化している点は、優れた取り組みであると判断される。幼小連携については、附属小学校内に仮校舎があることを踏まえ、登下校や休み時間など幼稚園・小学校両校種の教職員が互いの幼児児童の姿を見かけ、触れ合う機会もあり、相互の理解が深まることを期待する。

評価項目２　保健安全管理

【評価結果】　以下の内容を根拠として、4 段階評価中の「A 十分達成されている」と判断された。

（評価結果の根拠・理由）

観点２－１　保健計画の作成・実施の状況、園の環境衛生の管理状況

健康診断や疾病予防の取り組みを計画的に実施し、健康管理への意識向上に努めている点は高く評価できる。食育においては、仮園舎のため「おやつの部屋」のスペースが確保できないため実施はできなかったが、アレルギー対応が必要な園児も同じものが食べられるよう工夫して提供をしたり、プランター等で栽培した野菜は保育室内に調理スペースを作って対応するなどの工夫をしたりして、安全面にも十分配慮されている。「ほけんだより」（別添資料 2-①）を活用した情報提供も積極的に行われたりしており、これらの点から優れた実践であると判断される。

観点２－２　危機管理対策の見直しと強化

「令和 7 年度安全管理計画―危機管理マニュアル―」（別添資料 2-②）を昨年度の反

省と仮園舎での生活を考慮したうえで作成して、計画的に環境安全管理を実施している。避難訓練については仮園舎での生活となったため昨年とは違う経路での実施となったが､2回目からは事前予告なしでの避難訓練をした。定期的な安全点検や防災・避難訓練を実施し、事故防止に努めるとともに、幼児にも安全な避難方法を指導、外部講師を招いての幼児向け安全講習会の実施、救急処置実技講習への全教職員参加など、安全管理に関する取り組みが進められており、優れた取り組みであると判断される。

評価項目３　組織運営

【評価結果】 以下の内容を根拠として、4段階評価中の｢A 十分達成されている｣と判断された。

(評価結果の根拠・理由)

観点３－１　園務分掌や主任制度が適切に機能するなど、園の明確な運営・責任体制の整備の状況

園の運営・責任体制については、研究部・教育実習部・教務部の3部体制を整え、各主任を責任者として配置し、園長・部内教頭が統括する園務分掌を確立している。これにより、少ない職員数でも効率的に園務を遂行し、職員間の連携を強化する仕組みが確立され、職員の病休等にも柔軟に対応することができた点は、関わる教職員は負担は大きかったと推測できるが、園の運営や行事の遂行に寄与できた点は評価できる。園運営に関する協議は毎月の定例職員会議で行い、共通理解を深めるとともに、次年度の改善につなげる仕組みが確立されていることなどから優れた取り組みであると判断される。

観点３－２　教員のキャリアステージに応じた資質・能力の向上

「幼稚園教諭等 教員育成指標モデル」を参考に、保育者のキャリアステージに応じた資質・能力の向上に取り組んでおり、先輩教員の動きや配慮を学びながら、保育者自身が振り返りを行い、成長につなげる仕組みが整えられている点が高く評価できる。また、学級や学年を超えた職員間の対話を通じて保育の質向上に努め、互いにフォローしあえる職員集団を目指していく体制をとっている点も有効な取り組みといえる。

評価項目４　研究と研修

【評価結果】　以下の内容を根拠として、4 段階評価中の｢A 十分達成されている｣と判断された。

(評価結果の根拠・理由)

観点４－１　幼児教育研究と園内外における研修の実施

本年度は「遊誘財研究をいかした保育者の専門性向上への取り組みⅡ－子どもの主体的・創造的な生活を支える保育者の思考過程－」を研究テーマに設定し、オンライン会議システムを使用して大学との園内研究会・合同研究会を実施した。本年度は園舎改築に伴い仮園舎での実践であるため、研究保育の公開や幼児教育研究会の実施はできなかったが、合同研究会を幼児教育関係者にオンラインで公開し、5 回公開し延べ 104 名の参加を得て実施し、参加者からは高い評価を得ている（別添資料 4-①、4-②）ことなどからも優れた取り組みであると判断される。

観点４－２　教育委員会並びに幼児教育関係者への研修支援等の状況

園長が徳島県保育・幼児教育アドバイザー、全国幼児教育研究協会徳島支部長などを務めるほか、県・市教育委員会主催の研修会や新規採用教員研修での指導に携わっている。全国の幼稚園・こども園、大学関係者との交流を通じ、教育実践の発展に寄与しているほか、幼稚園・保育園関係の研修会への講師派遣、県内外の幼児教育関係者の訪問研修受け入れなど研究幼稚園・奉仕幼稚園としての使命を十分に果たしていることなどから優れた取り組みであると判断される。

観点４－３　地域住民への貢献

地域の行事に積極的に参加したり、オープンスクールを実施（参加者：51 名）したり、教育講演会「子どものレジリエンスを高めるために（講師：田村隆宏氏）」を保護者や一般の方に公開したりするなど、地域住民に対しても子育て支援や幼児教育振興に寄与する役割を十分に果たしていることなどから優れた取り組みであると判断される。

評価項目５　教育環境整備

【評価結果】　以下の内容を根拠として、4 段階評価中の「B 達成されている」と判断された。

(評価結果の根拠・理由)

観点５－１　設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備の状況

令和8年11月完成予定で新園舎の建築が始まっている関係で年度当初より附属小学校の一部を仮園舎として借用して教育実践を進めている。スペース的にも環境的にも限られた条件の中での活動を余儀なくされる面もあるが、教職員の工夫や園児の環境適応の柔軟性など、今までとは違う環境を活かした教育実践の場ともなり一定の効果をあげている。だが、「令和 7 年度附属幼稚園オープンスクールアンケート（別添資料 1-①）」の「4.環境整備」では、「よく整っている」と評価した保護者は昨年度の 92%から 59%に数値を下げた結果となっている。仮園舎の環境では致し方ないとは感じる面もあるが、アンケート結果の数値の結果を真摯にとらえ、B と判断する。

観点５－２ みどり会（保護者会）との連携

みどり会（保護者会）との連携により、環境整備や教育環境の充実が図られている。園舎周辺の草抜きや窓掃除、木々の剪定、園庭整備の継続などが評価されるほか、手づくりおやつ、人形劇講演、駐車場運営、本年度から立ち上がった朝の立哨など、多岐にわたる活動が行われている。令和 7 年度幼稚園評価アンケート結果報告書（別添資料 1 - ②）においても、これらの活動は高評価を得ていることなどから優れた取り組みであると判断される。

評価項目６　教育実習

【評価結果】　以下の内容を根拠として、4 段階評価中の「A 十分達成されている」と判断された。

（評価結果の根拠・理由）

観点６　専門性や実践力を養う教育実習の実施状況

ふれあい実習、附属学校園観察実習、附属学校園実習オリエンテーション、附属学校園実習、基礎インターンシップ、総合インターンシップⅠ・Ⅱ、幼児教育実践フィールド研究Ⅱなど多数の実習生を受け入れており、実地教育計画表及びICTの活用をとおして教育実習主任や担任の指導のもと計画的に実習を実施している。また、日誌をオンラインで大学教員と共有するシステムを導入するなど、指導の質を高める工夫がなされている。令和7 年度幼稚園評価アンケート結果報告書においても教育実習生に対する肯定的な意見がみられている（別添資料 1-②）ことなどから優れた取り組みであると判断される。

参考：学校の現況及び目的

Ⅰ　学校の現況及び目的

１　現況

(1) 学校名　鳴門教育大学附属幼稚園
(2) 所在地　徳島市南前川町２丁目 11 番地の１（仮園舎：附属小学校多目的棟）
(3) 学級等の構成
　3 歳児 1 学級、4 歳児 2 学級、5 歳児 2 学級
　保育課程 2 年保育、3 年保育
(4) 幼児数及び教員数(令和 7 年 5 月 1 日)
　幼児数 130 人 教員数 6 人（正規教員）

２　目的

(1)目的・使命

本園の目的は、附属幼稚園園則第１条において「義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長する」と定めるとともに、同条第２項では「幼児期の教育に関する各般の問題につき、保護者及び地域住民その他関係者からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行うなど、家庭及び地域における幼児期の教育の支援に努める」と定めている。

また、園則第１条には「鳴門教育大学における幼児の保育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする。」と定めており、具体的には教員養成大学の附属幼稚園として、次のような使命をもった幼稚園でもある。

① 大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する科学的研究を行う研究幼稚園としての使命
② 地域の教育課題の解明、参観者への指導・助言、文部科学省・県教委・地教委等からの要請による教員派遣など、教育界の発展に寄与する使命
③ 鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命

(2)教育目標

本園は、園則第１条に示されている幼稚園教育の目的の達成のため、次のような教育目標を掲げている。

① 自主・自立・創造・感謝の精神の芽生えを養うこと。
② 健康でたくましい心身を養うこと。
③ それぞれのよさや違いを認め、育ち合う感性を養うこと。
④ 身近な環境に対する興味や思考力の芽生えを養うこと。
⑤ 喜んで話したり聞いたりする態度や言葉に対する感覚を養うこと。
⑥ 創作的表現に対する興味や豊かな感性を養うこと。

(3)めざす子ども像

本園は、教育目標に基づき、次のように「めざす子ども像」を明確に示している。

○ たくましい子ども
○ しなやかな子ども
○ 育ちあう子ども

(4)令和７年度重点目標

鳴門教育大学・附属学校との連携をさらに密にし、中期目標・中期計画・本年度計画等の実現に努めながら、次の３点から教育目標の具現化をはかる。

① 幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた幼稚園教育の具現化をはかる。
② 「遊誘財」研究の成果を生かし、現代的な教育課題に係る研究・実践を推進する。
③ 大学、教育委員会との共同研究・研修を推進する。

(5)評価項目

① 教育課程・指導
・ 幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況
・ 科学的思考を促す幼小接続の生活プラン（教育課程・指導計画）作成に関する取り組み状況
② 保健安全管理
・ 保健計画の作成・実施の状況、園の環境衛生の管理状況
・ 危機管理対策の見直しと強化
③ 組織運営
・ 園務分掌や主任制度が適切に機能するなど、園の明確な運営・責任体制の整備の状況
・ 教員のキャリアステージに応じた資質・能力の向上
④ 研究と研修
・ 幼児教育研究と園内外における研修の実施
・ 教育委員会並びに幼児教育関係者への研修支援等の状況
・ 地域住民への貢献
⑤ 教育環境整備
・ 設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備の状況
・ みどり会（保護者会）との連携
⑥ 教育実習・インターンシップ等
・ 専門性や実践力を養う教育実習の実施状況